

平成 29 年度日臨技九州支部医学検査学会(第 52 回)の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事 会長 宮島 喜文

本学会が、一般社団法人長崎県臨床検査技師会の丸田 秀夫会長の下で、メインテーマ「繋 未来へ向けての挑戦」として盛会に開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、平素より一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(以下、日臨技と略す)の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日臨技の活動につきましては、「日臨技を新生させ、未来を拓く」を目標に掲げ、様々な事業に取り組んで参りました。昨年は、4月に発生した熊本地震への対応、7月には参議院選挙での組織内候補の擁立、8月末には神戸で開催された第 65 回日本医学検査学会では、検査医学会学術集会など関連学会と併催した世界医学検査学会(IFBLS2016)を同時開催するなど大事業でしたが、会員を始め、関係各位のご協力により、いずれも成果を得ることができました。

日臨技主催支部学会は、学術活動の一環として、会員の資質向上を図るものを目的として、担当県の実行委員会の皆様の特色ある企画と運営で多くの会員の皆様の期待されているところです。また、数年前から日臨技の当面の課題をテーマとする日臨技企画など通じて、私たちを取り巻く最新の医療情勢を踏まえた討議の場として重要な役割を果たしているものでもあります。

急速に進む技術革新は近い将来、臨床検査に分野でも大きく変貌する要素を含んでいます。例えば、インターネットや人工知能、そしてロボット開発が国を挙げて取り組んでいます。今後も持続できる社会保障制度を構築するために、国は医療・介護の改革を進め様々な政策実現が図られようとしています。今日、私たち医療現場においても、「時代は変わり、仕事も変わり、私たちも変わらなければいけない」状況にあるのではないのでしょうか。

そのためには、長年の懸案である臨床検査の定義づけとなるべき法的な根拠を確立するため、医療法や臨床検査技師法の改正を一日でも早く実現させなければなりません。

本学会のメインテーマである「繋 未来へ向けての挑戦」をテーマに進むべき方向性について考えていただくことは非常に有意義であり、あわせて学術活動の更なる発展と日頃の研究成果を発表する場として参加される会員にとって実り多き学会であることを祈念申し上げます。

最後になりましたが、本学会を運営するにあたりご尽力をいただきました丸田 秀夫学会長、南 惣一郎実行委員長をはじめ、長崎県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 29 年 10 月 21 日